



次期学習指導要領講演・研修会 開催日：平成29年6月20日(第1回)

去る6月20日(火)、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の岡田京子氏をお招きし、新宿区立愛日小学校で次期学習指導要領についての講演及び研修会が開催された。

今回の改定において、一番の大きな変化は全ての教科が「育成を目指す資質・能力の三つの柱」である「学びに向かう力 人間性等」、

「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」を軸にして整理し直されたことである。これに伴い図画工作の教科目標、各学年の目標もこの三つの柱に対応する形でまとめられた。図画工作科では知識の部分を今まであまり明確に示して来なかったが、今回の柱の一つが「知識・技能」となったことにより、次期指導要領の「知識・技能」の目標の前半部分は知識に対応する文章が盛り込まれている。また、各学年の指導内容の部分では、A表現の項目(1)は発想や構想、(2)は技能で、事項のAは造形遊び、イは絵や立体、工作という形に変更している。



「今回の改定にあたり内容そのものには大きな変更はなく、材料や用具などは前回と同様に変更はありません。現在の学習指導要領を基にして、現在行なっていることをこれからも充実させて行ってください。学習指導要領をご自身の授業の振り返りに活用し、日々の授業の中で、みなさんも創造性をもってワクワクしながら授業に取り組んでください。」と結びに述べられた。

第2回は7月31日(月)、立川市立第一小学校で行われます。岡田京子氏からお話を聞ける貴重な機会です。ぜひお越しください。
取材担当者：事務局 広報担当/小野里 雅由(江戸川・南葛西第三小)

研修 I / Report 「粘土大解剖！」 6月29日(木) in/中央区立第一月島小学校

6月29日に中央区立月島第一小学校にて、研修局の研修I「粘土を大解剖！」が行われた。実物に触れ、それが何であるかを解き明かすことが「解剖」であるとしたら、まさにこの研修では、直に働きかけることで、知った気になっている粘土に触れ、一人一人が改めて出会い直す場であった。

会場は、4つのエリアに分けられ、ブースごとに、土、油、紙、樹脂(軽量)、液体粘土、多種多様な粘土の他に、木くずとボンドと水を使って自作で粘土をつくる面白いコーナーまでが並んだ。都内からは、約90名の図工専科教員が集まり、参加している大人も子供のような眼で黙々と体験をしていた。

後半のグループワークの時間になると、参加者は「これは、3年生にやらせたい」、「こういう題材の中でやってみよう」と、すっかり教師の眼に戻っている。活発な意見交換が交わされ、「油粘土の有効期限って、3・4年なんです。最後どうしていますか?」、「異動したら、窯の説明書がなくて…」、「温度が上がらなくて本焼きできない! 窯って修理できるの?」、「正直、本焼きは面倒だ」「いや素焼きで十分!」「焼かなくなったら粘土はいろいろできます!」、「さわっているだけでリラックスできる」「やり直しが効くのが魅力!」…などなど、話題は尽きない様子だった。



結びの全体会は、府中市立若松小の大杉健先生から、題材紹介や公開制作を交えながら、各参加者が今日の「解剖」から得たワクワクやモヤモヤに、ほとんどすべて応えて下さるような具体的な講演をいただいた。「粘土は、ちょっと面倒と思われがちだが、子供は粘土が大好きで、そこに教師は多様な学びを仕掛けることができる。」

私たちは、材料のことを、本当に深く知っているのだろうか。私たちが、あえてその材料を選び、子供に何を学ばせたいのか。「粘土」という切り口から、改めて問い直す研修だった。

取材担当者：事務局 広報部長/渡辺 裕樹(昭島・つつじが丘小)

～お知らせ～ 今年度、突撃!となりの図工室は、各地区(計8ブロック)の図工専科から取材を行います!取材して欲しい図工室がありましたら、紹介してください!

リレー連載A

突撃!となりの図工室 城北「板橋区立成増ヶ丘小学校の図工室」

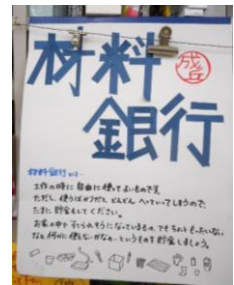
学校でひとつの図工室。普段はなかなか見ることのない他校の図工室を訪れて、気になる所を突撃取材!

第3回目の訪問先は城北ブロックより斎藤紀子先生(板橋・成増ヶ丘小)の図工室です。2校目、9年目の先生です。中学校や特別支援学級などでの講師経験もあるそうです。

まず、図工室に入ると目に付いたのが、班ごとの表示がされた工具箱です。引出しを開けると、げんのう、キリ、ペンチなど、必要な数が班の分だけ入っています。準備の時も片付けの時も、自分たちで工具の数や種類を確認できるように「工具箱チェック表」が入っています。また、図工室後方には、「材料銀行」があります。家の中で出た、使えそうなものを子供たちが持ち寄り、材料貯金をしていくそうです。工作の時に、自由に材料を使い、少なくなったら自由に補充できるように、材料ごとに、うまく整理整頓されています。ペットボトルや、スチレントレーなどの他に、草や木の枝などの自然の材料もあり、見ているだけでもワクワクするようなコーナーになっています。

鑑賞カードも図工室内に自由に見られるコーナー「みとめ合う心～みるみるタイム感想集～」があり、クラスごとにファイリングされています。また、「展覧会に行こう!」というコーナーには、たくさんの美術館のポスターが飾られています。早く作品が終わった児童には、塗り絵や、自分で絵が描けるカレンダー、四コマ漫画など、いろいろな課題が用意されています。一つのボックスの引き出しに、種類ごとに分けられており、取り出しやすく工夫されています。図工室内には、子供たちが作った作品があったり、鉛筆けずりに顔が描かれていたり、ユーモア溢れる空間になっていました。子供に戻って、私もここで、図工の授業をのびのびしたいなあ…と感じるひと時でした。

取材担当者:事務局 広報担当/取材担当者:太田 聡美(大田・道塚小)



リレー連載B

局長&副理事長からのメッセージ【ゼミ担当より】

～東京都図画工作研究会の各局・各部の長から運営内容についてお伝えします～

都図研ゼミは、今年度で8年目を迎え、自主的に希望した19名でこの6月23日より始まりました。会場が城南地区中心でありながら、城南以外でも城東・城北・城西だけではなく、半分近くは北多摩・南多摩の各市部からの参加の希望があり、その熱心な姿勢に、この都図研ゼミの1年間に私自身大きな期待をしています。これからこの1年間全10回で、自分が課題と考えている平面・立体・造形遊びの3つのグループ(鑑賞も含む)に分かれ、題材・指導案、実際の子供たちの作品の持ち寄り研究を起点として自分の希望した領域の問題点と重ね、自主的な運営を主体的に進めていきます。

今回も、各研究グループでテーマ決め、2つのグループのゼミ内授業を経て、1月26日(金)予定の公開授業を迎えます。第1回の都図研ゼミでは、顔合せの意味も含め、自己紹介も兼ねた作品持寄り研究の後、今年度の年間計画の説明、3つのグループ分け、グループ内・全体での仕事分担等、これからはじまる自主的運営に向けての準備を行いました。そして、その後のグループに分かれての話し合いでは、図工の話が溢れるように各グループ内を満たしており、ゼミ生のいいスタートが切れた実感が伝わってきています。若手が増え、都図研としても必要性の高さから起こった都図研ゼミであり、また、経験値の違う先生方のグループではありますが、これからのグループのテーマや指導案作りでは、使う言葉や材料や場、手渡し方や評価等、子供たちの姿を目の前におき、研究会やメールを通して熱く語り合う時間を重ねていこうと思っています。

きっとこの都図研ゼミで流れていく時間は、ゼミ生にとって何物にも代えがたい時間になることでしょう。忙しいと言ってしまえば、今の状態から何の変化も起こりませんから。お忙しい5月、都図研ゼミを勧めてくださった先生方、心より感謝申し上げます。これから1年間、各地区でもゼミ生を励まし支えていただけますよう、また、ご指導いただけますようお願いいたします。

都図研ゼミ担当:田中 明美(品川・立会小)



<特別委員会/教科提案部について>

都図研理事長 平田 耕介(新宿・愛日小)

教科提案部は、若手、中堅の図工専科教員の、個人的な研究や研修などを、提案性をもって発信し、公開授業(3月:小平三小予定)と、提案者、参観者との協議会を通して、教科に関わる研鑽を積み、成果や課題を共有する、今年度より発足した部です。部員構成は、昨年度末、研究局員の公募の際に、自主的にレポートを提出して頂いたメンバーを中心とした5名(部長 藤井隼人:北・神谷小)です。公開授業に、多くの参観者を期待します。